

2023年 6月 19日 発行

2022年度 エコアクション 21

# 環境経営レポート

期間：2022年4月1日～2023年3月31日



TOHO EARTHTECH INC.

株式会社東邦アーステック

本社・黒埼事業所

## 1. 企業理念

地球は一つの大きな生命体です。私たちは地球を構成する一員として命を生まれ、地球にその存在を委ねています。

人を愛し、互いに尊重し合うとともに、自然の恩恵にあずかるものとして地球環境を慈しむ心を持ち、その調和と共存に  
関与していかなければなりません。

東邦アーステックはその想いを基本に、地球環境に役立つ事業を通して、自らの存在価値を見出していきます。

## 2. 環境安全衛生方針

### 1) 環境に配慮した事業活動の推進

環境に配慮した生産活動、製品開発に努め、環境負荷の低減に貢献します。

### 2) 省エネ・省資源の推進と継続的改善

省エネ機器の導入による電力、ガス、水道などの使用量削減並びに生産工程の見直し技術改良による生産原単位の改善に取り組みます。

### 3) 廃棄物の削減とリサイクルの推進

産業廃棄物の削減と適切な処理を行い、リサイクル活動を推進し、資源の有効活動を図ります。

### 4) グリーン購入の推進

備品は全てグリーン購入とし、什器類は更新時にグリーン購入を検討します。

### 5) 法規制の遵守

環境に関する法規制やその他要求事項を遵守します。

### 6) 作業（操業）時の安全確保

従業員の作業時の安全を図ると共に安全操業に努めます。

化学物質を適切に管理し、使用量の抑制に努めるとともに、化学物質漏洩防止の徹底を図ります。

### 7) 衛生環境の管理

作業環境管理、作業管理、健康管理の労働衛生対策を推進し、従業員の快適な職場環境を目指します。

### 8) エコアクション 21 活動の継続的改善

エコアクション 21 活動の継続的改善に努めます。

### 9) 全従業員への方針周知

環境安全衛生方針は、全従業員に周知します。

制定日 2018年 8月 24日

株式会社 東邦アーステック

代表取締役社長 設楽 琢治

## 3. 登録事業所の概要

## 1) 会社名及び代表者名

株式会社 東邦アーステック  
代表取締役社長 設楽 琢治

## 2) 所在地

## 【認証登録対象】

本社・黒埼事業所 新潟県新潟市西区黒鳥 1450

総務本部

エネルギー事業本部

技術開発本部

建設事業本部 樹脂 G（新潟駐在）

品質環境保安部

## 【認証登録対象外】

建設事業本部 2012年3月にISO14001の認証取得

## 3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：取締役 喜多 宏

担当者連絡先：品質環境保安部 藤島 正典

連絡先 TEL：025-377-2711 FAX：025-377-2714

## 4) 事業活動の内容

天然ガスの生産・販売

ヨウ素及びヨウ素二次製品（ヨウ化カリウム）の製造・販売

土木・建築構造物向け維持・保全（補修、補強、防食、防水）用接着剤（トーホーダイト）と塗料の製造・販売



【天然ガス採取設備】



【ヨウ素製造設備】



【ヨウ素製品】



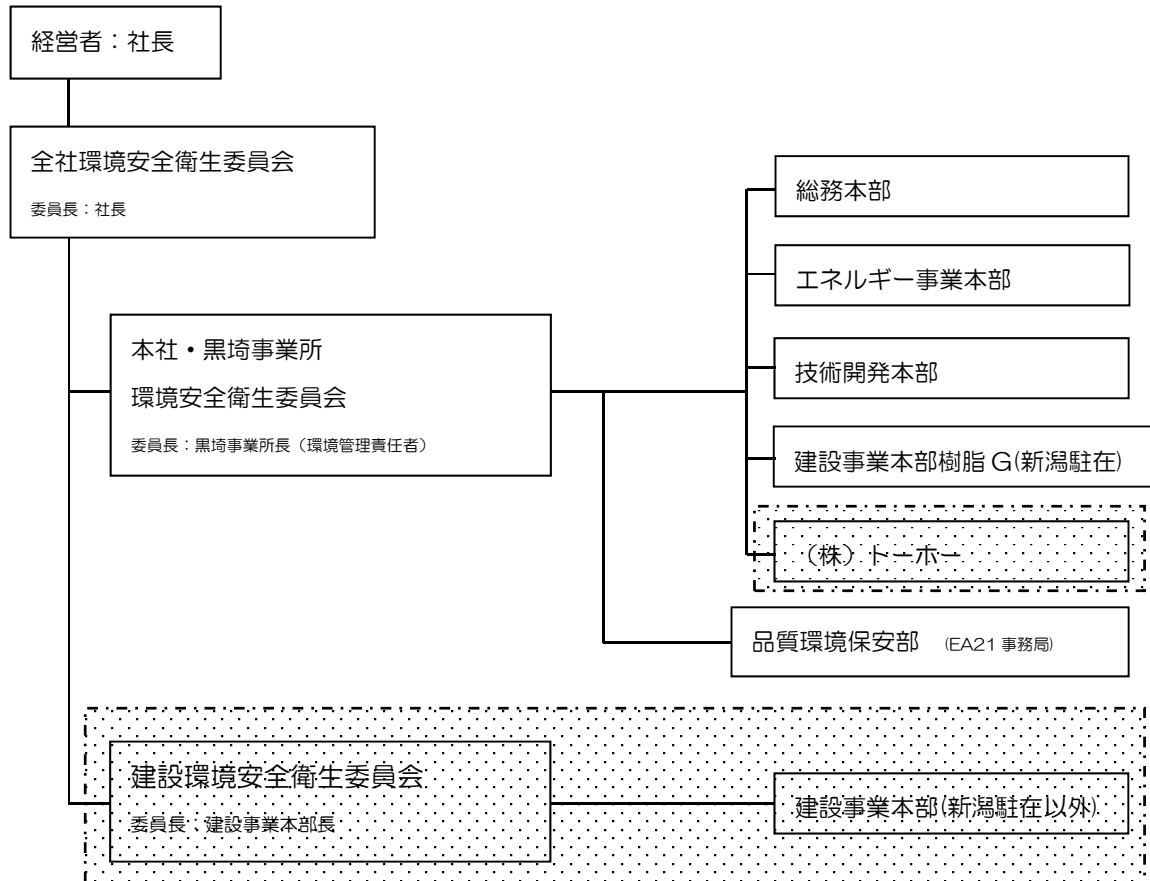
【エポキシ系接着剤：トーホーダイト製品】

## 5) 事業規模

黒埼事業所	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年間製品売上高	百万円	2,874	3,078	3,159	4,458
従業員数	人	88	91	95	95
延べ床面積	m <sup>2</sup>	8,908	8,908	8,801	8,908

表紙の写真 本社・黒埼事業所 社屋全景

## 4. 活動組織



※ 建設事業本部は、EA21 適用範囲外とする。(2012年3月ISO14001 認証取得)

※ (株)トーホーは、EA21 適用範囲外とする。(2012年1月ISO14001 認証取得)

## 5. 環境経営目標とその実績

## 1) 2022 年度目標(期初)

## 【二酸化炭素排出量】

2022 年度の目標値は、新規開発計画のガス生産に伴う二酸化炭素排出量を加算し 17,600 トンとする。また、2024 年度から新規ヨウ素製造設備稼働に伴い消費する電力量分の二酸化炭素排出量を加えた目標値を設定した。

2021 年度の 5 月より MGC エネルギーから購入電力の 98%以上の供給を受けるため、目標値設定には、MGC エネルギーの二酸化炭素排出係数を使用する。原単位削減を目指す。

## 【廃棄物排出量（充填物・マッドケーキ・ベンゼン含有水は、目標に含めず）】

2022 年度は、設備の撤去による廃棄物発生が予定されることから 60 トンを目標値とする。2023 年度以降は 40 トンを目標値とする。目標値以下を達成できるよう目指す。

充填物排出量を別途記載とする理由：

充填物更新工事は、ヨウ素製造設備の黒埼プラントの 4 塔を順次 15 から 20 年ごとの不定期に予定するため、廃棄物排出量の目標値から除外するものの排出があった場合に別途排出量を記載する。

マッドケーキ排出量を別途記載とする理由：

有価物としての取引が出来ず、法令に則り、産業廃棄物として処理した場合には、別途数量を記載する。

ベンゼン含有水を別途記載とする理由：

期の途中で発生し、通期でどの程度発生するか予測が困難なため、別途数量を記載とする。

## 【塔洗浄廃酸排出量】

2019 年度まで除外していた塔洗浄廃酸は、今後毎年 2 塔ずつ洗浄を計画するため、一定数量として目標値に加える。過去 5 年の最大排出量の実績は、2020 年度の 91.1 トンであるが、過去の実績を鑑みて 84.0 トンとする。十分な洗浄効果を保ちつつ排出量の削減を目指す。

## 【水道水使用量】

水道水使用量は、2022 年度の目標値は、73,100m<sup>3</sup>とする。

水道水使用量の 2024 年度は、新規ヨウ素プラントの稼働に伴い、水道水使用量の増加が見込まれるため、目標値を 80,100m<sup>3</sup>とする。気候の状況に合わせて水道水使用量の削減を行い、目標値以下の達成ができるよう目指す。

環境負荷	2022 年度 目標	2023 年度 目標	2024 年度 目標	2025 年度 目標
二酸化炭素排出量 <sup>1)</sup> (トン/年)	17,600 <sup>2)</sup>	18,000 <sup>2)</sup>	20,400 <sup>2)3)</sup>	22,900 <sup>2)3)</sup>
廃棄物排出量(充填物除く)(トン/年)	60.0	40.0	40.0	40.0
塔洗浄廃酸排出量 (トン/年)	84.0 <sup>4)</sup>	84.0 <sup>4)</sup>	84.0 <sup>4)</sup>	126.0 <sup>4)</sup>
水道水使用量 (m <sup>3</sup> /年)	73,100	76,900 <sup>5)</sup>	80,100 <sup>5)6)</sup>	81,700 <sup>5)6)</sup>

1) 二酸化炭素排出量の買電は、MGC エネルギー2020 年度二酸化炭素排出係数(調整後) 0.405(t-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用し  
て算出

2) 新規開発計画のガス生産に伴う消費電力量による二酸化炭素排出量を加算

3) 新規ヨウ素プラント稼働に伴う消費電力量による二酸化炭素排出量を加算

4) 2022 年から 2024 年度は 2 塔、2025 年度は新規稼働に伴い 3 塔洗浄

5) ヨウ素リサイクル施設稼働に伴う水道水使用量増加分を加算

6) 新規ヨウ素プラント稼働に伴う水道水使用量増加分を加算

【化学物質使用量】薬品のリストを更新し、リスク評価を継続する。

【グリーン購入】文房具は 100%グリーン購入を目指す。その他は、グリーン購入を検討する。

## 2) 2022 年度以降の中期目標（期中見直し後継続）

期初に制定した環境経営目標を見直した。目標値はそのままとし、継続することとした。

環境負荷	2022 年度 目標	2023 年度 目標	2024 年度 目標	2025 年度 目標
二酸化炭素排出量 <sup>1)</sup> (トン/年)	17,600 <sup>2)</sup>	18,000 <sup>2)</sup>	20,400 <sup>2)3)</sup>	22,900 <sup>2)3)</sup>
廃棄物排出量(充填物を除く) (トン/年)	60.0	40.0	40.0	40.0
塔洗浄廃酸排出量 (トン/年)	84.0 <sup>4)</sup>	84.0 <sup>4)</sup>	84.0 <sup>4)</sup>	126.0 <sup>4)</sup>
水道水使用量 (m <sup>3</sup> /年)	73,100	76,900 <sup>5)</sup>	80,100 <sup>5)6)</sup>	81,700 <sup>5)6)</sup>

1) 二酸化炭素排出量の買電は、MGC エネルギー-2020 年度二酸化炭素排出係数(調整後) 0.405(t-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用して算出

MGC グループの一員として 2021 年 5 月から、購入電力の 98%以上を MGC エネルギーに切替

- 2) 新規開発計画のガス生産に伴う消費電力量による二酸化炭素排出量を加算  
 3) 新規ヨウ素プラント稼働に伴う消費電力量による二酸化炭素排出量を加算  
 4) 2022 から 24 年度は 2 塔、2025 年度は新規稼働に伴い 3 塔洗浄  
 5) ヨウ素リサイクル施設稼働に伴う水道水使用量増加分を加算  
 6) 新規ヨウ素プラント稼働に伴う水道水使用量増加分を加算

【化学物質使用量】薬品のリストを更新し、リスク評価を継続する。

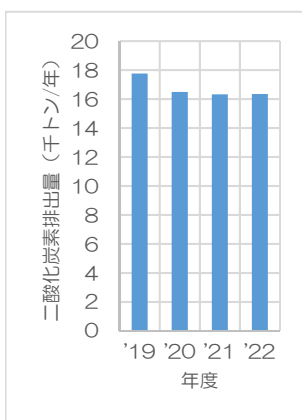
【グリーン購入】文房具は 100%グリーン購入を目指す。その他は、グリーン購入を検討する。

## 3) 環境負荷の実績

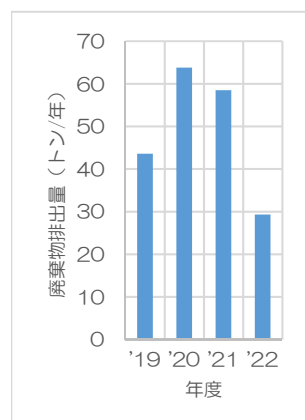
2019 年度から 2021 年度までの過去 3 年間の実績及び今年度の実績を以下に示す。

環境負荷	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
二酸化炭素排出量 <sup>1)</sup> (トン/年)	17,753	16,490	16,317	16,349
廃棄物排出量 (トン/年) (充填物を除く)	43.6	63.8	58.5	29.3
塔洗浄廃酸排出量 (トン/年)	75.1	91.1	81.9	80.5
水道水使用量 (m <sup>3</sup> /年)	76,013	73,169	69,576	78,405

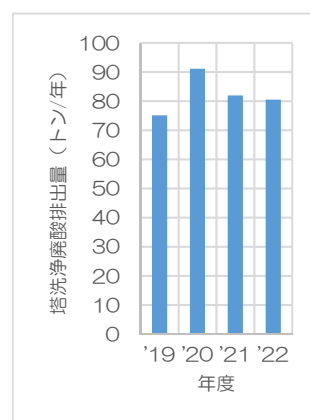
1) 二酸化炭素排出量は、MGC エネルギー-2020 年度二酸化炭素排出係数(調整後) 0.405(t-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用して算出



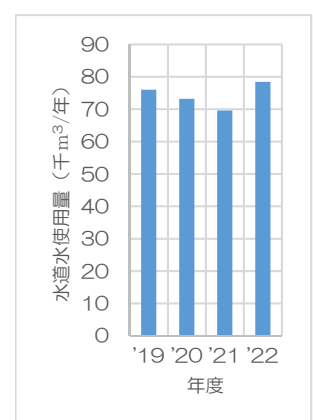
【二酸化炭素排出量】



【産業廃棄物排出量】



【塔洗浄廃酸排出量】



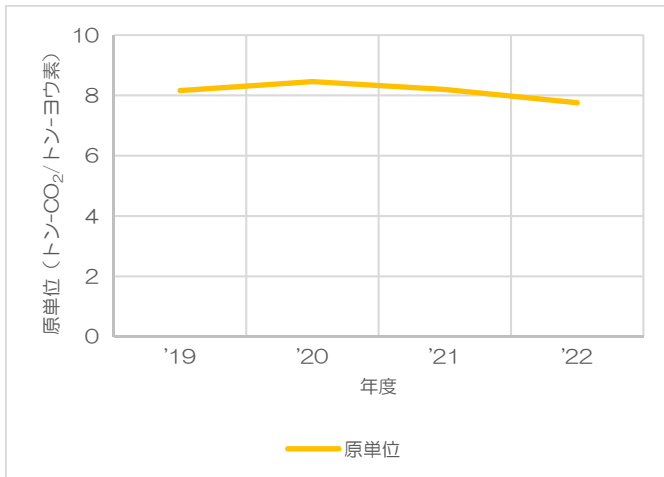
【水道水使用量】



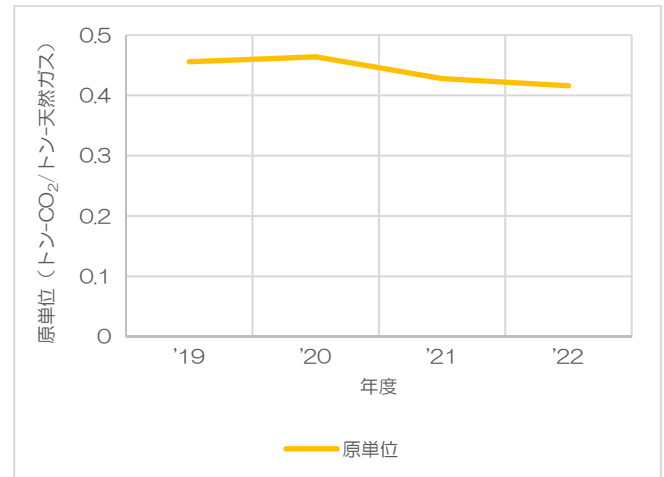
## 【二酸化炭素排出量に関するヨウ素製造、ガス生産の原単位について】（参考指標値）

2019年度から2021年度までの過去3年間の実績及び今年度の実績を以下に示す。

環境負荷（二酸化炭素排出量）	2019年度 <sup>1)</sup>	2020年度 <sup>1)</sup>	2021年度 <sup>1)</sup>	2022年度 <sup>1)</sup>
ヨウ素製造高当り原単位 （トン-CO <sub>2</sub> /トン-ヨウ素）	8.16	8.46	8.20	7.76
水溶性天然ガス生産高当りの原単位 （トン-CO <sub>2</sub> /トン-水溶性天然ガス）	0.456	0.464	0.428	0.416

1)二酸化炭素排出量は、MGC エネルギー2020年度 二酸化炭素排出係数（調整後）0.405(t-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用して算出

【ヨウ素製造時二酸化炭素排出量】



【水溶性天然ガス生産時二酸化炭素排出量】

## 【二酸化炭素排出量】

2022年度は、2021年度に比較し、全体の二酸化炭素総排出量は、32トンの微増となりました。2022年度は、製品ヨウ素に占めるリサイクルヨウ素の割合が上昇したことを受け、製品ヨウ素の原単位は大きく向上しました。また、新規開発エリアからのガス採取により、ガス生産原単位は大きく向上しました。結果、製品であるヨウ素製造及び水溶性天然ガス生産における原単位は、それぞれ5.7%向上、2.9%向上しました。

## 【廃棄物排出量】

廃棄物の削減に努め、総量として2022年度は2021年度より29.2トン減少し、目標値以内でありました。

## 【マッドケーキ】

マッドケーキは、有価物として取引を行い、産業廃棄物として処理はありませんでした。

## 【ベンゼン含有水】

ベンゼン含有水は、252.7トンを産業廃棄物として適正に処理を行いました。

## 【塔洗浄廃酸排出量】

目標を84.0トンと設定し目標値以内でありました。

## 【水道水使用量】

水道水使用量は、2022年度は2021年度に比べ8,829m<sup>3</sup>増加しました。①黒崎プラントの水道水使用量は年間を通じて3,843m<sup>3</sup>増加しました。また、リサイクルヨウ素の生産増で1,200m<sup>3</sup>増加しました。②自家発電所の稼働率が増えたことでクーリングタワー用役水が1,864m<sup>3</sup>増加しました。③新規開発中の西川プラント工事で2,137m<sup>3</sup>使用し増加した。一部使用量の削減はあったが、結果、全体で8,829m<sup>3</sup>増加しました。

## 【化学物質使用量】

毒物劇物の管理状況を黒崎事業所の全部署でチェックし、全て適正管理されていることを確認しました。

## 【グリーン購入】

購入する文房具においてエコ商品が設定されているものは、優先的にエコ商品を購入した。文房具の購入金額基準で85%がエコ商品でありました。

## 4) 今年度の目標及び実績

## 目標

【二酸化炭素排出量】	目標に対して総量未満
【廃棄物排出量(廃酸を除く)】	目標に対して総量未満
【塔洗浄廃酸排出量】	目標に対して総量未満
【水道水使用量】	目標に対して総量未満
【化学物質使用量】	薬品のリスト更新、リスク評価を推進する
【グリーン購入】	備品のグリーン商品購入の推進

環境負荷		2022年度			
		目標	実績値	達成率 <sup>3)</sup>	評価 <sup>4)</sup>
二酸化炭素排出量 <sup>1)</sup>	(トン/年)	17,600	16,349 <sup>5)</sup>	108%	◎
二酸化炭素排出量 <sup>2)</sup>	(トン/年)	17,600	15,550 <sup>5)</sup>	113%	◎
廃棄物排出量(充填物を除く)	(トン/年)	60.0	29.3	205%	◎
塔洗浄廃酸排出量	(トン/年)	84.0	80.5	104%	○
水道水使用量	(m <sup>3</sup> /年)	73,100	78,405	93.2%	△

1) 二酸化炭素排出量の買電は、MGC エネルギー2020年度二酸化炭素排出係数(調整後) 0.405(t-CO<sub>2</sub>/kWh) 実績値に採用

2) 二酸化炭素排出量の買電は、MGC エネルギー2021年度二酸化炭素排出係数(調整後) 0.342(t-CO<sub>2</sub>/kWh) 実績値に採用

3) 達成率=目標値/実績値

4) 評価 ◎:よくできた ○:できた △:あまりできなかった ×:できていなかった  
( 105%以上 95~105%未満 80~95%未満 80%未満 )

5) 二酸化炭素排出量について、2021年度の排出係数0.342(t-CO<sub>2</sub>/kWh)にて試算したところ、MGC エネルギーの排出係数が向上したことで、2020年度排出係数を用いての試算結果より二酸化炭素排出量が799トン減少する結果となりました。



## 6. 主要な環境経営計画の内容と取組結果の評価、次年度の取組内容

※評価 ◎：よくできた ○：できた △：あまりできなかった ×：できていなかった

部署ごとに環境経営計画を作成し、それぞれの項目について具体的な目標を設定し活動を行いました。

## 【取組結果の評価】

環境目標	部門	目標	環境経営計画の概要	達成状況 (2022.4~2023.3)	評価※
二酸化炭素 排出量の削減	本社・ 黒埼 事業所	【エネルギー事業本部】 使用電力の削減 目標削減量：30kW (基準電力：3,000kWの1%削減)	・省エネ対策の推進 ・新規稼働基地の消費電力を把握する。	・58.4kW削減 達成率 195%	◎
		【エネルギー事業本部】 アイドリングストップの励行	・社有車のアイドリングストップ等による削減	2021年度比 通期平均燃費 ガソリン車：2.3% 軽油車：2.9%の燃費向上	○
		【エネルギー事業本部、総務本部 技術開発本部共通】 ・消灯の実施、冷暖房の省エネ	・こまめに消灯を実施 ・不快指数60~74を維持	・不快指数を概ね維持、湿度は快適ゾーンを外れることがあった。 ・クールビズ、ウォームビズを実施	○
		【技術開発本部】 ・省資源の推進 電力 目標 170MWh 電力(2021年度 160MWh) ガス 目標 249 m <sup>3</sup> ガス(2021年度 178m <sup>3</sup> )		2022年度実績 ・電力 164MWh(目標 比4%減) ・ガス 162m <sup>3</sup> (目標比35%減)	◎
廃棄物排出 量の削減	本社・ 黒埼 事業所	【エネルギー事業本部、総務本部、 技術開発本部共通】 ・コピー用紙購入量の削減 目標値：335,000枚(2021 年度と同数量)	・コピー用紙の両面、裏面印刷の 実行及び電子ファイル化による紙の 購入量の削減	実績値：215,000枚(目標 比36%減)	◎
		【技術開発本部】 ・廃棄物の削減 目標 2,374 kg (2021年度 1,477 kg) ・溶媒 目標 189 kg (2021年度 28 kg)	・実験スケール最小化	・2022年度： ・廃棄物 2,091 kg(前年 度比12%減) ・溶媒 0 kg(目標比：-)	◎
	黒埼 事業所	【エネルギー事業本部、総務本部、 技術開発本部共通】 ・産業廃棄物の適正処理	・混合廃プラと廃プラを区別し、 適正に処理	・廃棄物は区別され適正に 処理実施。	○
水道水使用 量の削減	黒埼 事業所	【エネルギー事業本部】 ・圧送所及び発電所の水道使用 量の適正化 (2021年度：21,959m <sup>3</sup> )	・適性化	・2022年度：23,823m <sup>3</sup> (前年度比：8%増)	◎
		【エネルギー事業本部】 ・黒埼プラント水道水使用量の 適正化 (2021年度：45,518m <sup>3</sup> )	・適正化	・2022年度： 44,970m <sup>3</sup> (前年度： 1%減)	○
		【技術開発本部】 ・水道水使用量の節水 目標 760m <sup>3</sup> (2021年度：719m <sup>3</sup> )	・毎月使用量をメーターで確 認し、記録保管	・2022年度 699m <sup>3</sup> (目標比：減)	◎
化学物質使 用量の削減	黒埼 事業所	【技術開発本部】 ・薬剤等の管理 溶媒 目標 189 kg (2021年度 28 kg)	・実験スケール最小化	・溶媒 0 kg(目標比：-)	◎
グリーン 購入	本社・ 黒埼 事業所	【エネルギー事業本部、総務本部、 技術開発本部共通】 ・グリーン購入品への変換 ・グリーン商品購入の継続		・グリーン商品購入を優先した。	○

## 【次年度の取組の内容】

環境目標	部 門	目 標	環境経営計画の概要	達成状況 (2023.4~2024.3)	評価※
二酸化炭素 排出量の削減	本社・ 黒埼 事業所	【エネルギー事業本部】 使用電力の削減 目標削減量：30kW (基準電力：3,000kWの1%削減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ対策の推進</li> <li>新規稼働基地の消費電力を把握する。</li> </ul>		
		【エネルギー事業本部】 アイドルングストップの励行	<ul style="list-style-type: none"> <li>社有車のアイドルングストップ等による削減</li> </ul>		
		【エネルギー事業本部、総務本部 技術開発本部共通】 ・消灯の実施、冷暖房の省エネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>こまめに消灯を実施</li> <li>不快指数 60~74 を維持</li> </ul>		
		【技術開発本部】 ・省資源の推進 電力 目標 163MWh 電力 (2022年度 164MWh) ガス 目標 232 m <sup>3</sup> ガス (2022年度 179m <sup>3</sup> )			
廃棄物排出 量の削減 廃棄物の適 正処理	本社・ 黒埼 事業所	【エネルギー事業本部、総務本 部、技術開発本部共通】 ・コピー用紙購入量 の削減 目標値：335,000 枚 (2021 年度と同数量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コピー用紙の両面、裏面印刷の実行及び電子ファイル化による紙の購入量の削減</li> </ul>		
		【技術開発本部】 ・廃棄物の削減 目標 2,374 kg (2022年度 2,091 kg) ・溶媒 目標 119 kg (2022年度 0 kg)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験スケール最小化</li> </ul>		
		【エネルギー事業本部、総務本 部、技術開発本部共通】 ・産業廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>混合廃プラと廃プラを区別し、適正に処理する。</li> </ul>		
水道水使用 量の削減	黒埼 事業所	【エネルギー事業本部】 ・圧送所及び発電所の水道使用 量の適正化 (2022年度：17,972m <sup>3</sup> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>適性化</li> </ul>		
		【エネルギー事業本部】 ・黒埼プラント水道水使用量の 適正化 (2022年度：44,970m <sup>3</sup> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正化</li> </ul>		
		【技術開発本部】 ・水道水使用量の節水 目標 770m <sup>3</sup> (2022年度：699m <sup>3</sup> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月使用量をメーターで確認し、記録保管</li> </ul>		
化学物質使 用量の削減	黒埼 事業所	【技術開発本部】 ・薬剤等の管理 溶媒 目標 119 kg (2022年度 0 kg)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験スケール最小化</li> </ul>		
グリー ン 購 入	本社・ 黒埼 事業所	【エネルギー事業本部、総務本 部、技術開発本部共通】 ・グリーン購入品への変換 ・グリーン商品購入の継続			

## 7. その他の環境活動

## ・エコキャップ運動の推進

認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会の活動に賛同し、全社を挙げてペットボトルのキャップを集めて送り、協力しています。



期間	回収量 [個]
2022 年度	9,000
2021 年度	13,400
2020 年度	13,820

## ・社会福祉施設への協力

社会福祉法人へアルミ缶洗浄作業の材料として空のアルミ缶を送り、協力しています。



期間	回収量 [kg]
2022 年度	223.9
2021 年度	253.9
2020 年度	271.7

## 8. 社会貢献活動

## 1) 有価物リサイクルのための PC・周辺機器などの提供 『のんびり AXIS (アクシス)』

回収可能な物品を一覧表にして社内に掲示し、使用済みの PC・周辺機器などを無償提供しております。有価物の回収を通じ、障がい者の方の就労支援につながっております。

## 2) 弊社設備の部品の分解・洗浄・組立作業の委託 『あすなろ福祉園』

弊社設備の部品の分解・洗浄・組立作業の委託しております。作業の委託を通じ、障がい者の方の就労支援につながっております。2022 年度実績として、約 821 千円分の依頼をいたしました。

## 3) ウェスとポリ袋の購入 『もぐら工房』

弊社で利用するウェスとポリ袋を購入しております。障がい者の方が製作したウェスとポリ袋の購入を通じ、障がい者の方の就労支援につながっております。2022 年度実績として、約 157 千円分購入いたしました。

## 4) 使用済み切手運動 『日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS)』

「使用済み切手運動」に参加し、使用済み切手を提供することで海外医療支援に協力しております。2022 年度は、9 月に使用済み切手の提供を行いました。

## 5) 世界の飢餓撲滅 『特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 (WFP)』

「世界の飢餓撲滅」の趣旨に賛同し、食糧支援のための寄付を行っております。2022 年度は、200 千円の寄付をいたしました。

## 6) ヨード欠乏症対策等 『(財)成長科学協会』

成長に関する科学研究を通じて、ヨード欠乏症対策等の事業を行うことへの寄付を行っております。2022 年度は、200 千円の寄付をいたしました。

## 7) 『トルコ・シリア地震緊急支援』

2023 年 2 月、トルコ・シリア地震の緊急支援として、『特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 (WFP)』へ 300 千円の寄付をいたしました。



## 9. 教育訓練の実施

2022年5月23日に塩素漏れ事故を想定した防災訓練を実施しました。(写真①～④)

2022年10月27日に本社・黒埼事業所事務棟の屋内消火栓を用いた消火訓練を実施しました。(写真⑤、⑥)

## ①【初期対応（状況確認）】



## ④【無害化確認】



## ②【防護服の装着】



## ⑤【消火訓練、屋内消火栓取扱い説明】



## ③【塩素漏洩箇所探索および処置】



## ⑥【消火訓練、放水訓練】



## 防災訓練の主な反省点

- ・今回の訓練では車載用無線機を利用（仮設）して、黒埼プラント事務所と中央管制室の伝達を聞きながら確認することができました。有事の際には迅速に準備出来るよう大会議室に無線機の常設を検討します。

## 消火訓練の主な反省点

- ・昨年、反省点に挙がった中央管制室の警報を解除しないと消火栓ポンプを停止できない設定については、今回、設定解除を行った上で、放水訓練を行ったところ問題なくポンプを停止できることを確認出来ました。

## 10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

## 1) 適用となる環境関連法の遵守状況

○：遵守、×：非遵守

適用法令等	内容	遵守状況
騒音規制法（新潟市生活環境の保全等に関する条例）	特定施設の設置、変更の届出及び規制基準の遵守	○
振動規制法（新潟市生活環境の保全等に関する条例）	特定施設の設置、変更の届出及び規制基準の遵守	○
悪臭防止法（新潟市生活環境の保全等に関する条例）	事業活動に伴って発生する悪臭を規制し、生活環境の保全	○
大気汚染防止法（電気事業法及び新潟市生活環境の保全等に関する条例）	特定施設の設置、変更の届出、ばいじん・窒素酸化物の測定及び排出基準の遵守	○
水質汚濁防止法（鉱山保安法及び新潟市生活環境の保全等に関する条例）	特定施設の設置、変更の届出、排水の測定及び排水基準の遵守。有害物質（ベンゼン）の公共用水域への漏えいあり	×
浄化槽法	保守点検、水質検査の実施及び規制基準の遵守	○
消防法	指定可燃物貯蔵・取扱の届出及び指定看板の設置	○
特定工場における公害防止組織に関する法律	公害防止組織設置、施設の点検とばい煙濃度測定、事故時の緊急措置	○
高圧ガス保安法	施設の設置、変更の届出及び保安教育、保安検査の実施	○
毒物及び劇物取締法	製造・販売業登録の届出及び毒物劇物の管理	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物多量排出事業者の状況報告、指定看板の設置、委託先処理業者の処理状況の確認、委託契約の書面締結、マニフェストの発行・管理	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	保管及び処分状況報告、処分完了	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	PRTR 対象物質の届出及び SDS の作成	○
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	対象物質の届出及び軽微変更の実施	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	エアコン、冷凍・冷蔵機器の点検、フロンの充填・回収の委託やフロン類の引渡し	○
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	省エネの推進及び定期報告（第一種エネルギー管理指定工場）	○
労働安全衛生法	安全衛生委員会の開催、健康診断の実施、作業環境測定の実施、化学物質リスクアセスメントの実施	○
工場立地法	新設・増築・変更時の申請	○
特定家庭用機器再商品化法	対象家電を廃棄する場合は適正処分、管理票保管	○
使用済み自動車の再資源化などに関する法律	自動車所有者としての適正管理	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	事業活動において温室効果ガス抑制等の措置	○
危険物船舶運送及び貯蔵規則	国連勧告による危険有害性伝達ツール（GHS）及び国連番号の表示	○

## 2) 違反、訴訟等

水質汚濁防止法関連：2022年4月に脱湿機のドレン水にベンゼンが含有している可能性を発見したため外部分析機関にて分析を実施。その結果、有害物質であるベンゼンが検出されたため新潟市へ報告。その後、新潟市による公共用水域の水質調査を行いベンゼンの検出がないことを確認しました。

## 11. 代表者による全体の評価と見直し

2022年度の二酸化炭素排出量は、新規開発エリアの稼働に伴い、排出量は微増であったが、原単位は改善されました。

2022年度の廃棄物排出量は、期初の目標の通りの排出量であり、想定外の廃棄物も発生しなかったため想定通りでした。塔洗浄廃酸排出量は、目標に対して3.5トン抑え目標通りでした。

水道水使用量は、目標を73,100m<sup>3</sup>としましたが、結果、78,405m<sup>3</sup>となり目標を超過しました。これはヨウ素の生産量が増加したことに伴い水道水使用量が増加したためであり、水道水のヨウ素原単位としては2021年度より向上したことを確認しました。また、自家発電の割合を増加させたことにより、自家発電の付帯設備であるクーリングタワーの水道水使用量が増加したためであります。

現在、既存設備の更新と合わせ、西川地区における新規開発計画を進めており、環境負荷の絶対量は増加する方向ですが、経済性の伴う再生可能エネルギーの導入を目指します。また、引き続き省エネルギー設備の選定、工程見直し等によりエネルギー原単位の削減に努め、一人ひとりが常に環境に対しての意識を持ち、環境安全衛生方針に沿った事業活動を推進してまいります。

以上